

無痛分娩の麻酔に関する説明と同意書

(ID: _____)

患者氏名: _____

生年月日: _____

今回行われる無痛分娩の麻酔に関する以下の項目について、別紙文書のように説明いたしました。

当院では患者様に十分理解して頂いた上で、自由意思に基づき医療を選択して頂くよう努力しています。今回の麻酔などに関して医師からの説明および説明文書などに疑問な点などがありましたら、いつでもお尋ね下さい。

また、ご同意いただいた後に無痛分娩の希望を取り消す事も可能ですので事前にご相談ください。

麻酔の名称: _____

麻酔予定日: _____

1. 無痛分娩について

同意 (します ・ しません)

2. 麻酔中の臨床データの研究利用について(説明文書 16)

同意 (します ・ しません)

いずれかに○印をしてください。

説明日: _____

説明医師: _____ 印 (自筆署名, もしくは記名押印)

立会人: _____ 印 (自筆署名, もしくは記名押印)

独立行政法人国立病院機構佐賀病院 病院長殿

私は今回の無痛分娩の麻酔について上記に基づき説明を受け、麻酔、検査、処置の内容を十分に理解し了解した上で麻酔、検査、処置を受けることに同意いたしました。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

患者氏名(自署): _____

家族等氏名(署名): _____

(患者との間柄: _____)

医師からの注意事項

- 計画無痛分娩の予定日以前に自然陣痛で分娩が始まった場合は、基本的に無痛分娩(麻酔)の対応が出来ないことを理解し同意します。

無痛分娩の麻酔についての説明文書

(ID:)

患者氏名:

生年月日:

1 行われる医療行為: 硬膜外カテーテル挿入(硬膜外麻酔)

麻酔科からは、無痛分娩の麻酔に関する説明をさせていただきます。
分娩に関する説明は、別途、産婦人科よりさせていただきます。

2 予定している麻酔の名称

- 硬膜外麻酔 脊髄くも膜下麻酔
 脊髄くも膜下麻酔併用硬膜外麻酔 (CSEA)

3 目的、期待される効果と限界

「無痛」というと完全に痛みが無くなるように思われるかもしれませんが、100%完全に無痛になるということではありません。そのため、分娩中は下腹部の張る感じや圧迫感が残ることがあります。この感覚を痛みとして感じる方もおられ、感じ方には個人差があることを御承知おき下さい。少なくとも産婦さんに応じた許容できる範囲の痛みと和らげ、分娩の進行を妨げることのないスムーズなお産を目的としています。

当院では基本的には硬膜外麻酔で行いますが、分娩の進行状況や産痛の程度により、上記の他の方法を選択する場合があります。硬膜外麻酔による無痛分娩は、希望される産婦さんや医学的適応のある産婦さんが対象ですが、脊椎の疾患や神経疾患、止血の機能に異常がある場合は施行できません。詳細な硬膜外無痛分娩の適応判断については、産婦人科医師と協議の上、決定致します。

硬膜外麻酔で施行する硬膜外カテーテル留置は、一般的な手術麻酔においても行われるもので、カテーテルからの麻酔薬投与により鎮痛効果を発揮します。無痛分娩に使用する場合はお産の経過に与える悪影響を少なくするため、手術時に使用する麻酔薬と比べ、低濃度で用いますので感覚を残しつつ痛みを軽減させることができます。麻酔科医の診察により硬膜外麻酔の広がりや効果が不十分と判断される場合は、硬膜外カテーテルの入れ直しを行うことがあります。

当院では安全という観点を優先し、体制が十分に整った状態で提供できるよう、計画分娩(日を決めて薬剤で陣痛を誘発し、分娩を行う出産)での無痛分娩を行います。無痛分娩を予定されている方でも計画外で分娩が始まってしまった場合は硬膜外無痛分娩を基本的にはお受けいただけません。

4 実施予定の具体的な医療行為

- 静脈ルート確保 (点滴) 硬膜外カテーテル留置
 導尿・尿道カテーテル留置 動脈への留置針刺入 くも膜下穿刺
 その他 ()

5 硬膜外鎮痛の開始時期

入院当日に硬膜外カテーテルを挿入し、翌日以降に陣痛を誘発します。子宮収縮がはじまり、産婦さんから麻酔開始の希望があった時点で硬膜外鎮痛の開始を検討しますが、遅く開始すると麻酔の効果が不十分なまま出産に至ったり、早すぎると分娩時間が長くなることがありますので分娩の進行や産痛の様子をみながらご本人・助産師・産科医・麻酔科医で相談しながら決定します。

6 無痛分娩中の過ごし方

硬膜外無痛分娩は、世界的に広く行われている安全性の確立した分娩方法です。しかし、ごく稀に合併症を起こすことがあるため、硬膜外分娩の間は、血圧計・パルスオキシメーター(脈拍数や血液の中の酸素濃度を測定する器機)・分娩監視装置(陣痛計や胎児心拍計)といった医療機器を装着し、静脈ルート(点滴)を確保しておきます。助産師・産科医だけでなく、麻酔科医も産婦さんを診察させていただきます。ご質問があれば、何でもお聞き下さい。

自然分娩、無痛分娩に関わらず分娩経過によっては緊急帝王切開に移行しないといけなくなる可能性があります。その際の誤嚥性肺炎(嘔吐による肺炎)の危険を少なくするために、分娩中は固形物を食べることは出来ません。産婦さんと赤ちゃんの状態が落ち着いている場合は、飲み物(水、茶、スポーツドリンクといった透明な水分)を飲むことができます。

無痛分娩中は、足に力が入りにくくなることがあります。その場合は自由に歩くことが出来ませんので、トイレはベッド上で行っていただいたり、尿道カテーテルを使用することがあります。

7 無痛分娩の終了

赤ちゃんが産まれて、産科の処置(切開した傷の縫合など)が終われば、硬膜外麻酔を中止し、硬膜外カテーテルは抜去します。そのあと数時間で麻酔は切れて、下半身の感覚は完全に元に戻ります。その後の後腹(あとばら・後陣痛)や、お乳の痛み(乳腺炎・腫脹)は、通常のお産と同じです。

8 無痛分娩がお産の経過に与える影響

硬膜外無痛分娩では、分娩所要時間が長くなったり、器械分娩(吸引分娩や鉗子分娩など)が必要となる場合、母体の発熱がみられることがあります。しかし、硬膜外分娩を行っても自然分娩と比較して、帝王切開に移行する頻度は変わりません。

9 緊急帝王切開の麻酔

どのようなお産でも、分娩停止、胎児心拍低下、胎児機能不全などで途中から帝王切開が必要となる場合があります。硬膜外無痛分娩を行っている産婦さんは、麻酔に使っている薬剤を変更することにより、帝王切開の麻酔に移行することが可能です。その時の麻酔科医の判断により別の麻酔方法を選択する場合があります。

10 麻酔の危険性

硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔の安全性は高まっていますが、合併症を発生することがあります。また麻酔前から合併症がある人は、病状が増悪することがあります。わが国において硬膜外無痛分娩の危険性を調べた統計はありませんが、手術の硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔の危険性を調べた日本麻酔科学会の統計(2009年～2011年)によると、手術1万例あたりの死亡率は、硬膜麻酔1.00例、脊髄くも膜下麻酔0.75例、脊髄くも膜下麻酔併用硬膜外麻酔(CSEA)0.43例です。

11 硬膜外麻酔(脊髄くも膜下麻酔)の合併症

- 一般的な麻酔合併症：
低血圧、徐脈、発熱、吐き気・嘔吐、頭痛、背部痛、全身のかゆみ、一時的な神経障害(足のしびれ・筋力低下)、消毒薬による皮膚炎、排尿障害、薬物によるアレルギー反応など

- 頻度は少ないが治療が必要となる合併症：
硬膜穿刺後頭痛(複視・視力障害、難聴、起立性低血圧)、硬膜外カテーテル断裂による体内遺残、高位脊麻(麻酔域の広がりすぎによる、呼吸数減少や中等度の血圧低下)など

- 非常に稀だが、迅速な治療を必要とする重篤な合併症：
局所麻酔薬中毒、全脊麻(麻酔域が脳まで広がり、意識障害や呼吸停止を招く)、硬膜外腔の血腫・膿瘍やそれに伴う神経障害、脊髄の髄膜炎、脳出血、アナフィラキシーショックなど

12 合併症が発生した場合に必要な治療

合併症が出現し、生命の危機に陥るような事態においては、患者さんの生命維持を第一目標として最善の医療処置を麻酔科医の判断で行います。

13 胎児への麻酔の影響

硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔が胎児に直接悪影響を与えることはありません。鎮痛開始初期に徐脈をひきおこすことがありますが、ほとんどの場合は一時的なものです。しかし、母体に麻酔合併症が発生した場合、胎児もその影響を受けることがあります。

14 代替的治療方法がある場合には、その内容および利害得失

お産の進行や赤ちゃんに状態によっては、途中で硬膜外鎮痛を中止して麻酔なしの経膣分娩または帝王切開に移行する場合があります。

15 硬膜外無痛分娩の費用

硬膜外無痛分娩は自費診療です。

通常の出産費用に加え、以下の料金が必要になります。

- | | |
|----------------------|--------|
| ①硬膜外無痛前検査・麻酔科外来費用 | 1万円 |
| ②硬膜外無痛分娩管理費用（計画分娩1日） | 12万円 |
| （計画分娩2日目以降） | +2万円/日 |

①を施行し、無痛分娩を予定されていた方が計画日以前に自然分娩に至った場合、②の費用は発生いたしません。①の費用の返金はできません。また、後述する麻酔合併症の治療にかかる費用は保険診療となります。

16 麻酔中のデータの医学教育や医学研究への使用について

麻酔中のデータを医学教育や医学研究(学会誌掲載など)に用いることがあります。

その際には必要に応じて当施設の倫理委員会の審査を受けます。

個人情報公開されることはありません。ご同意いただける方は、同意書に承諾の旨をご記入下さい。(同意がない場合は使用しません)

17 同意を撤回する場合

同意文書を提出しても、麻酔開始までは本人の希望により撤回することが出来ます。

麻酔を中止する希望がある場合にはその旨をお知らせください。

なお、同意を拒否されても、また実施直前までに同意を撤回されても、診療上不利益を受けることはありません。

以上

連絡先

麻酔についてのご質問は、下記までご連絡ください。

〒849-8577 佐賀県佐賀市日の出一丁目20-1

独立行政法人国立病院機構佐賀病院 麻酔科

電話 0952-30-7141(代表)

計画分娩、分娩管理などについてのご質問は、担当産科医にお尋ねください。